

前回の委員指摘事項に対する回答

区分	指 摘	回 答
ツルの里づくり	<p>① I 期整備で目標としていた「ツル類 200 羽の完全越冬地環境の整備」はかなり高い目標であり、実現は難しい。ただし、過去 10 年程度、ツルの越冬が比較的多く確認されるようになってきており、事業効果は上がってきている。</p> <p>② II 期整備で、「中筋川におけるツル類をはじめとする希少種の保全」という目標に沿って行われているツルの越冬環境の整備(ねぐらの整備、採餌環境の整備)は、概ねよい方向で進められている。ツルに限らず、様々な生物が生息できるような環境整備を進めていただきたい。</p> <p>③ 狩猟規制については、狩猟者と互いにより方向に進んでいけるよう今後も対話を進めてほしい。</p> <p>④ 鹿児島県出水市でも、ここ数年は毎年のように鳥インフルエンザが確認されている。今後、四万十川下流域に多くのツルが飛来するようになった場合に備え、鳥インフルエンザへの対応を検討しておかなければならない。養鶏場の位置情報等を収集し、ツルの利用を目指している場所からの距離等を整理しておくことよい。</p> <p>⑤ 森沢地区をはじめ、中筋川を魚類の成育場として多様な環境を整備していくということであるため、できるだけ早く整備を進めていただきたい。</p> <p>⑥ 中筋川が内水や堤内の水田とつながることが重要であるため、地元との調整や堤内の整備も併せて進めていただきたい。</p>	<p>—</p> <p>・四万十川流域生態系ネットワークの取り組みで地元との協議を進めており、今後も継続していく。</p> <p>・第 3 回検討会で説明。</p> <p>・第 3 回検討会で説明。</p> <p>・四万十川流域生態系ネットワークの取り組みの中で、地元との調整や堤内の整備も検討していく。</p>
アユの瀬づくり	<p>① 設定目標に対して、現時点での達成状況を評価していただきたい。 →昭和 49 年のアユ産卵場調査結果をもとに当時の入田地区の産卵場面積である 1 万㎡を目標に設定しており、近年はその目標を達成できている。[事務局]</p> <p>② 上流を切り下げると影響が下流の河床変動に及ぶと聞いている。どこをどのように切るとアユの瀬が広がるのかということはこの会での検討事項に加えていただきたい。</p> <p>③ 昭和 40 年代の産卵場面積だけではなく、その時代の産卵場の分布状況も重要である。当時は、赤鉄橋(四万十川橋)下流に主要な産卵場が形成されており、アユの産卵場や資源の回復を目指すならば、赤鉄橋下流に産卵場を再生することが可能かも含め、検討していただきたい。 →昭和 40 年代の産卵場の分布状況については、再度資料収集し、次回の検討会で提示する。[事務局]</p> <p>④ 産卵場面積の変化とともに出水状況を示すことにより、土砂の移動と併せて考えることができるため、整理に反映していただきたい。</p> <p>⑤ アユの瀬づくり事業について、アユの産卵予備軍は淵に留まるため、瀬の上流近傍に淵があることが必要である。瀬と淵をセットで増やすことを考えること。</p>	<p>—</p> <p>・第 3 回検討会で説明。</p> <p>・第 3 回検討会で説明。</p> <p>・第 3 回検討会で説明。</p> <p>・今後のモニタリング調査に反映する。</p>
スジアオノリ場の再生	<p>① スジアオノリは、大きな自然の変化の中で、近年減少していると思えない。</p> <p>② 生育地での水温上昇が大きな減少要因と考えられるが、例えば栄養塩の供給等、様々な要因を考えていかなければいけない。</p> <p>③ スジアオノリと同様に大きな影響を受けているヒトエグサ養殖の回復についても考えた方がよいのではないか。</p> <p>④ スジアオノリ場の再生について、整備を行った山路地区はスジアオノリの生育はしているものの、近年はあまり伸長していない。</p> <p>⑤ 最近のスジアオノリ漁の低迷は海水温の上昇が原因と考えられる。水温が高いと藻体が伸長せず胞子を作るため、漁獲できる長さまで伸長しない。</p>	<p>・第 2 回検討会で説明。</p>
コアマモ場の再生・創出	<p>① 事前の調査を十分に行わないまま、整備を進めたことが問題である。</p> <p>② 整備箇所は、年々コアマモが生育できる環境から遠ざかっているように感じる。</p> <p>③ 四万十川では、地盤高より塩分環境が重要であり、湧水があり塩分が高くなりすぎない場所で、適切な底質を維持できればコアマモは生育できる。 →昨年(令和 3 年度)、ワンドの中と入口で 3 層にわけて水温、塩分を計測している。また、ワンドの環境を評価できるよう、現在繁茂している大島水道部においても同様の計測を行っているため、次回の検討会でワンドでの生育の可否についてご審議いただきたい。[事務局]</p> <p>④ コアマモ場づくりは、目標を変更することも考えなければいけない可能性もある。コアマモのみにこだわらず、多様な目標の設定を検討してもよいのではないか。</p> <p>⑤ 雨水を一時貯留し、そこから整備箇所に淡水を供給できるような構造を提案したが、コスト面から難しいとの回答であった。 →現在取り組んでいる流域治水の中で、環境面も踏まえながら取り組んでいきたい。[事務局]</p> <p>⑥ これまでのモニタリング調査結果を整理し、報告していただきたい。</p> <p>⑦ 他河川でのコアマモ場の再生・創出事業について、事例を紹介していただきたい。</p>	<p>・第 2 回検討会で説明。</p>